

広島大学附属幼稚園

親しみのある遊具の修復で、5つの力につながる遊びに発展！

保育環境づくりのポイント

本園の木製遊具『砦』(右の写真)は、主に5歳児に親しまれている3階建ての遊具です。その砦もメンテナンスを欠かさず行ってきましたが、老朽化で3階部分をやむなく撤去しました。しかし、子どもたちから3階部分がなくなることを惜しむ声が出たため、子どもたちの声と遊びの状況を加味し、これまであった3階部分のうち半分のスペースの修復に乗り出しました。

～子どもたちのこの力を育みたい～

- ☑感じる・気付く力
- ☑うごく力
- ☑考える力
- ☑やりぬく力
- ☑人とかかわる力



取組み内容

【感じる・気付く力/人とかかわる力】

職人さんが修復作業をされている様子を見学することで、子どもたちは工具や作業の仕方に興味津々。見学しながら子どもたちが積極的に質問をし、職人さんが丁寧に答えてくださいました。また、実際に工具も使わせていただきました。子どもたちは、職人さんを尊敬の眼差しで見っていました。

1. 作業の様子を見学

その工具は何ですか？



これは鑿(のみ)だよ



鑿って
あ～やって使うんだ・・・

柱を切ると、
粉チーズ(木くず)が降ってきた！



この工具、すごい風が出る！



雪みたい！

2. 修復した砦での遊び

(1) 3階からのジャンプ【うごく力/やりぬく力】

友達の刺激を受けることで、“俺だって”と思うけど、“怖い・・・”でも、あきらめずに挑戦です。跳べたことで達成感を味わっていました。

俺、飛べるよ！



跳びたいけど
う～ん、怖いな～

でも俺だって・・・

飛べた！

(2) ホテル屋さん

【感じる・気付く力/考える力/やりぬく力/人とかかわる力】

前々から遊んでいるホテル屋さんも、3階が出来たことで新たな部屋を作ったようです。その際、3階から見える景色の美しさを感じる姿や、部屋の設備に関する課題を友達と解決しようとする姿が見られました。

景色がいいよ！



「布団の上でプリンを食べるとこぼすよ」の友達の声から、協力してテーブル作り。自力で作りました。



年少さんを招待。自然な形で異学年のかかわりも！



靴下脱いでも温かいかな？



その後、なんとテーブルがこたつに！

＜今回の取組みを通して＞ 本園の遊具は、保護者と職員が協働して製作した木製遊具が多く存在します。子どもだけでなく、保護者、職員にとっても愛着のある遊具ばかりです。専門の方の力をお借りし、元々ある遊具を修復、再生させることは、5つの力の育みにつながることはもとより、子どもたちの遊具への限りない愛着へと変わっていくと考えます。 5歳児学級担任：君岡 智央

